

研究のまとめ

1 日々の実践を振り返る中で見えてきたこと

◎思わず動きたくなる工夫を様々な場面で積極的に

- ・「多様な動き」は「運動的な遊び」の中だけではなく、ごっこ遊びの中でも十分に経験できる。子どもが意欲的に、積極的に動くときには、思わず体も動くものである。また、遊びの中だけではなく、片付けや移動の際にも多様な動きは経験できる。そのことを教師が意識し、遊びや生活のいろいろな場面で経験させたい動きを積極的に取り入れることで、動きの種類や頻度を増やしたり、意欲を高めたりすることができる。

◎好きな遊びを十分に楽しむことは多様な動きを誘発する

- ・「好きな遊び」では、幼児が興味をもったことに主体的に取り組むので、自分のペースで興味を追求したり、自由に発想を広げたりすることを楽しめることがある。遊びの中で役になりきったり、気持ちが高揚したりすると、多様な動きが誘発されやすい。その反面、いろいろな遊びが同時並行で進む中で、経験させたいことに気持ちを向けていくような関わりを個別にすることをいつもできるとは限らない、という難しさがある。

◎魅力的な一斉活動を意図的に行うことは個々の経験を広げる「種まき」になる

- ・「一斉の活動」の中に多様な動きを取り入れることで、日頃経験することが少ない動きを学級全員が楽しみながら経験できる。また、全員が経験したからこそ、翌日からの好きな遊びの中で再現したり発展させたりするきっかけになる。教師にとっては安全管理がしやすい利点もある。一方で、体を動かすことに消極的な幼児にとって一斉の活動が魅力的に見え、思わずやってみたくなるように、活動の内容や声の掛け方を工夫する必要がある。

2 研究全体を通して見えてきたこと

- ・実態を的確に把握するためには、「対象児の追跡調査」や「保護者アンケート」等の客観的な資料を収集・分析することが大切である。
- ・「幼児理解 → 計画 → 実践 → 振り返り → 省察」というサイクルを意識して実践を進める中で、幼児理解と教材研究は指導を工夫する上で大変重要である、ということを改めて実感した。

ご指導いただいた先生方

千葉大学教授
中央区教育委員会指導室長
中央区教育委員会副参事
中央区教育委員会統括指導主事
中央区教育委員会統括指導主事
中央区教育委員会指導主事
中央区教育委員会指導主事

松崎洋子先生
吉野達雄先生
清水明先生
村上隆史先生
上原史士先生
清水浩和先生
平野収先生

中央区教育委員会指導主事
中央区教育委員会幼児教育担当専門幹
【平成28年度】
中央区教育委員会副参事
中央区教育委員会統括指導主事
中央区教育委員会幼児教育担当専門幹
中央区教育委員会統括指導主事
和田正典先生
中島由美子先生
猪瀬賢一先生
柄澤武志先生
川越裕子先生
尾上佐智子先生

本園の教職員

園長
主任教諭
教諭
教諭
○箕輪恵美
○齊藤愛美香
○太田真梨乃
○○塩田志保里

教諭
幼稚園講師
補佐員
補佐員
○西智恵美
○若杉奈美
鈴木道子
田邊陽子

用務主事
【平成28年度】
幼稚園講師
補佐員
横張輝美
○江川智子
佐藤ひとみ

◎研究主任 ○研究に携わった教職員